

ウミガメ類の保全と日本の立場

日本ウミガメ協議会会長・東京大学大学院客員助教授

亀崎 直樹

ウミガメ類7種はすべてその個体数の減少が著しいとされているが、太平洋のウミガメ類の保全において日本は極めて重要な位置にある。日本がその保全に大きく関係するウミガメはアカウミガメ *Caretta caretta*、アオウミガメ *Chelonia mydas*、タイマイ *Eretmochelys imbricata*、オサガメ *Dermochelys coriacea* の4種である。種別にその概説を行う。

アカウミガメ：インド-太平洋、大西洋、地中海に分布する。南日本は北太平洋でも唯一の産卵場であり、その海岸線は本種の保全生物学上極めて重要であることが認識されているが、砂浜の侵食などによりその適地は減少している。本種の幼体は日本の海岸線でふ化したのち、北太平洋海流によって広く北太平洋に分散される。一部はメキシコ沖に達し、相対的に高密度で生息する海域も発見されており、米国・メキシコによって漁業の制限などその保護活動が展開され始めた。メキシコ沖で生育したアカウミガメはハワイの北方海上を通過して再び日本に戻ってくる。このように北太平洋では広くアカウミガメが分布するが、そこでの漁業活動が本種の減少要因となっていることが指摘され、1992年流し網の操業は中断され、現在もマグロやカジキの延縄の規制がハワイ近海では検討されている。また、米国は延縄での混獲対策、特にその釣り針の改良や操業水深、操業海域の検討も実施し、一定の成果を収めている。日本近海に戻ってきたアカウミガメは日本の南部から東部にかけての海域で生育し成熟すると考えられている。成熟したアカウミガメは東シナ海の大陸棚に比較的定着して生活し、数年おきに南日本の沿岸に繁殖回遊をすると考えられているが、一部は東シナ海に入らず日本の南方、あるいは東方の太平洋を回遊するグループもいる。東シナ海以外にまれに南シナ海まで回遊する個体も存在し、これまで産卵した個体がフィリピンやベトナムで再捕獲されたこともある。今後、それらの海域で操業している中国、韓国、台湾、ベトナムなどと共同して保護する方策を展開すると同時に、日本沿岸での漁業による混獲問題を解決する必要がある。また、ウミガメの産卵地としての砂浜も適切な管理が望まれる。

アオウミガメ：インド-太平洋、大西洋、地中海に分布する。日本では小笠原諸島と屋久島以南の南西諸島で産卵するが、これらは熱帯の島嶼部に点在する本種の産卵場の北縁部にあたる。小笠原諸島では明治時代よりその保護対策が議論されて、生物学的な情報も蓄積されているが、南西諸島には慶良間諸島西部や西表島南部に相対的に産卵が集中する砂浜があるが、詳細な調査はまだ行われていない。本種の保全にとって、日本が今後注目すべきは、南日本の沿岸の浅海域である。本種は植物食性であり、浅海の藻類や海草を食べる。藻類は貧栄養である熱帯より温帯である日本本土の沿岸の方がより多く生産されており、日本沿岸は本種にとって重要な索餌海域であることがわかりつつある。これまでのデータから小笠原産のアオウミガメは日本本土沿岸に回遊することが知られているが、南西諸島やさらに南のフィリピンやインドネシアで生まれた本種が来遊してきている可能性もある。一方、日本沿岸では磯焼けと称する藻類の退行現象が各地で指摘されており、本種との関係が注目される。

タイマイ：インド-太平洋、大西洋に分布する。太平洋の産卵場は熱帯のサンゴ礁海域の島嶼を中心に分布し、ジャワ海などがよく知られている。西沙諸島、南沙諸島でも産卵するという不確実な情報があるが、調査は行われていない。日本では八重山諸島、宮古諸島、慶良間諸島、沖縄島など

で毎年数回の産卵が記録されるが、その個体数は数個体と考えられている。本種はサンゴ礁海域に特異的に生息する数種のカイメンを選択的に摂食することが知られており、必然的に本種の分布はサンゴ礁海域に限定される。南西諸島にはサンゴ礁が発達する海域があるが、それらの海域、特に八重山諸島海域は本種の重要な索餌海域であると考えられ、その観点からも健全なサンゴ礁の保全が望まれる。また、同時にサンゴ礁海域における漁業も、生育途中の本種を減少させていると考えられる。

オサガメ：インド-太平洋、大西洋に分布する。本種は餌であるクラゲやサルパを摂餌しながら、ウミガメ類の中では最も高緯度まで回遊する。太平洋の産卵場はマレー半島、ニューギニア島周辺、中米太平洋岸の3カ所であるが、マレー半島での産卵は激減し、年に数回しか記録されない。また、中米でも減少傾向が続いており、ウミガメの中でも最も絶滅の危険性が高い種と認識されている。日本では奄美大島での産卵が確認されている。本種の減少要因は、外洋において操業されるマグロ・カジキの延縄漁業であり、その混獲によって溺死することが世界的な問題になっている。本種は日本沿岸にも来遊し、毎年、混獲や死体の漂着が報告される。



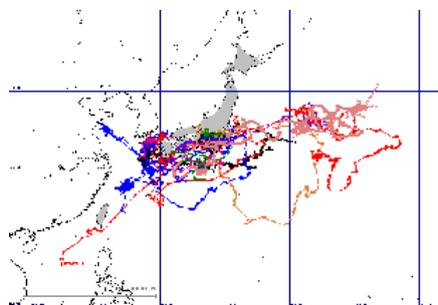
産卵中のアカウミガメ（四国）



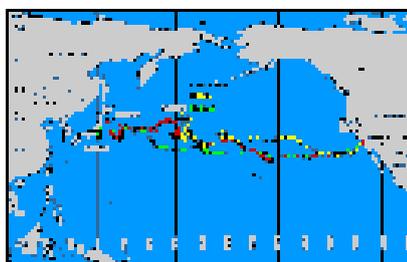
摂食するアオウミガメ（沖縄）



摂食するタイマイ（モルジブ）

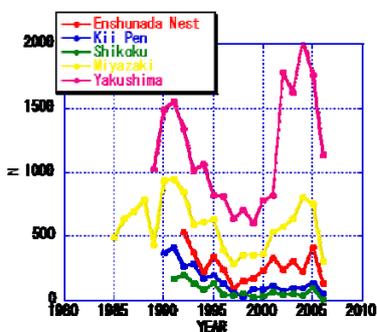


日本近海のアカウミガメの回遊

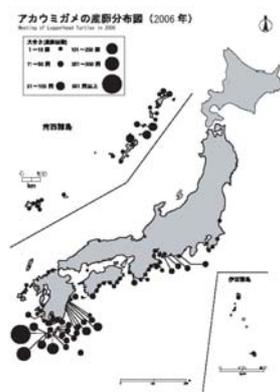


<http://www.hswri.org/>

アメリカから日本への回遊したアカウミガメ



日本のアカウミガメ産卵回数の変化



2006年のアカウミガメ産卵分布